

# 市政ニュース

**大将野庄銘逆修碑と倉見陣屋跡を市文化財に指定  
新たに2件が市文化財に加わりました**

7月28日、市教育委員会は、市文化財として新たに、日高町野々庄の三野神社境内にある「大将野庄銘逆修碑」(歴史資料)と倉見の「倉見陣屋跡」(史跡)を指定しました。

## ■大将野庄銘逆修碑

享祿4(1531)年銘のある中世の逆修碑(※1)「但馬国大田文(※2)」に書かれている大将野上村を確認できる唯一の資料です。

この碑文からは、莊園制度崩壊後に農民の結合体としての村が共同体として機能していたことがわかります。

※1「逆修碑」…生前に死後の安楽を願って建てる碑



▲大将野庄銘逆修碑

※2「大田文」…莊園、公領土地台帳

## ■倉見陣屋跡

小出家の5代目出石城主である小出吉重の弟、英本が旗本として領地支配のための陣屋を構え、享和3(1803)年、8代目輝英の時に現在地に移転し、以後、明治初期まで機能していました。

石垣と堀の一部、土塁などが残されており、当時の構えも想定できます。



▲倉見陣屋跡に残る石垣

## 豊岡市中学校リーダー研修会を開催 頑張る中学生！リーダー研修会で交流!!

8月26日、平成20年度豊岡市中学校リーダー研修会を日高文化体育館で開催し、市内10中学校から30人が参加しました。

この研修会は、各学校の生徒会などリーダーとして活躍する生徒が集まり、グループミーティング等を通して、学校づくりやまちづくりの取り組み・意見発表を行い、中学生リーダーとしての自覚を深めることを目的に、初めて開催しました。

初めに、じゃんけんゲームで緊張をほぐした後、校歌を歌ったり、模造紙等を使って各校の活動を紹介しました。また、グループミーティング



▲学校紹介をする豊岡南中学校生徒会メンバー



▲熱のこもるグループ討議

グでは、30人が5つのグループに分かれ「こんな学校をつくりたい!」をテーマにさまざまな意見を交換しました。「個性と笑顔あふれる学校」「一人ひとりにスポットが当たる学校」…、そのために「毎日があいさつ週間」「意見箱の設置」…などの活動が必要だと提案されました。その後、植村直己冒険館を見学し、郷土が生んだ偉大な冒険家の考え方や生き方に触れ、最後に、日高東中学校の山科勝俊さんが「貴重な時間を過ごせました。より良い学校づくりを進められるよう頑張ってくださいませ!」と締めくくり研修会を終えました。

### 〈主な市政の動き〉

- 〔8月〕
- 14日・ヴィッセル神戸ユースエキシビジョンマッチ
- 22日・神戸親和女子大学との連携プロジェクト報告会
- 23日・竹野消防団夏季訓練
- 24日・但東消防団消防操法大会
- 25日・宮津養父線・中藤加悦・加悦但東線改修促進期成同盟会総会
- 保・幼・小・中学校教職員研修会
- 兵庫県消防防災航空隊合同訓練
- 26日・豊岡市中学校リーダー研修会
- 28日・モンゴル友好訪問使節団報告会
- 31日・第29回兵庫神鍋高原マラソン全国大会
- 〔9月〕
- 1日・第3回市議会定例会開会(～29日)
- 4日・コスモス荘敬老会
- 最高齢者祝福訪問
- 但馬地区行政相談連絡協議会研修会(～5日)
- 7日・日高消防団消防操法大会
- 12日・最高齢夫婦祝福訪問
- 13日・全日本総合男子ソフトボール選手権大会(～15日)

## 神戸親和女子大学との連携プロジェクト報告会を開催しました 児童の体力向上計画、学校・行政・家庭・地域の連携が必要!

市では、平成18年度から神戸親和女子大学と連携して、体力と生活習慣等との関連を検証し、より広い視点から体力について考え、実践していく取組みを推進してきました。

8月22日、取組みの結果報告会を出石文化会館ひばこホールで開催し、市内3小学校の児童の調査結果をもとに「生活習慣と体力の関係」「食生活と体力の関係」について、以下のような分析結果が報告されました。

①規則正しい生活は重要であるが、それ以上に大事な

- ②スポーツや遊びで体を動かすだけでなく、本を読んだり勉強したりするなどメリハリがあり、バランスの取れた生活が大事である。
- ③子どもの成長に応じた外遊びを経験することは、体力向上にも役立つ。
- ④運動が好きになり、もっと得意になりたいと思うことが重要である。そのためには、できるだけ小さいころから運動に親しむことが望ましい。

⑤体力が向上することは、単に体力面が向上するだけでなく、成績や生活など生活全般の質を向上させる効果が期待できる。

この報告を受け、市では学校や家庭、地域と連携した取組みを進めていきます。



▲親和女子大学発達教育学部教授の但尾哲哉さんによる報告

## 県消防防災航空隊と豊岡市消防本部の合同訓練を実施 地震により孤立した地域の負傷者を救え!!

8月25日、孤立した地域での救助活動を想定した県消防防災航空隊と市消防本部の合同訓練を、出石・但東両地域で実施しました。

訓練では、地震により道路が寸断されたとの想定で、県防災ヘリコプターを使い、被災情報の収集・伝達・救助の手順を確認しました。

県航空隊との合同訓練で、市消防本部の隊員が防災ヘリに乗り込むような訓練は今回が初めて。陸路では約30分かかる区間を防災ヘリは約6〜7分で移動しました。

市消防本部は「大変参考になった。今後も年1回程度は合同訓練をしたい」と話していました。



▲防災ヘリで救助訓練を行う市消防本部隊員

## 中見市長の徒然日記 ⑬

トホホな夏の終わり

「またもや整形外科です。右の手首からひじの上までギブスでしっかり固められました。実に情けなく、実に派手です。」

今年5月の連休中。早朝、メタボ撲滅大作戦で、エネルギー消費が通常歩行の2倍という後ろ向き歩きをしていて、置かれていた三角コーンに乗り上げて、くると転倒。右手が地面に負けた。

こんなことで豊岡病院を煩わせてはいけなさと辛抱していたのですが、痛みにたまらず、夕方救急へ行きました。「転倒?後ろ向き歩きええ?」医師も看護師も大笑いです。「先生、痛いんですけど」

「そうですね、あはは」その後、紹介されて京都大学の手の専門医に診てもらい、経過観察を経て8月下旬に手術を受けました。で、右手ぐるぐる巻きです。

会う端から職員にはぎよつとされ、道ですれ違う人には「あれま、どうしなったん?」と聞かれ、反対側の歩道の人

からも大声で尋ねられ、コンサートに行く座席に次から次に行き合いが押し寄せ、飛行機では客室乗務員に「腕枕どうぞ」と枕を渡され、何だか注目度満点です。

9月4日、市内最高齢の北村よしさんにお祝いをお持ちしました。107歳で私の年齢の倍プラス1歳。「いつまでもお元気でいてください」と耳元で大きな声で話しかけると、「あんたも体をいたわって」と氣遣われる始末です。

たくさんの方にご心配いただき、感謝の極みです。ある人に「そんなことで市民の命を守るか」と一喝もされました。災害対策本部のトップとなるべき人間が、何ともお恥ずかしい限りです。

しかしそれでも、市民の命を守るためには、避難勧告も避難指示も、そして排水機の停止すらも躊躇せず決断する覚悟はできていますつもりです。

何事も、



後ろ向きはいかんや。